桂花餘香

初編之上

へ4
4555
1

門へ
4515
1

昭和十一年
一月二十五日
購求

此冊子は母家のよれち行の流よりおくりたてまつる門人岩と苔跡となく
日てにさて是故後の苔はしらへ
このるへ物也つゝまへらえをぬまとりかはは
りの流ひしかやうさ発路ふ
は清探のこゝ流らひちあ海を事
と人路をて世をきわまふ流たのなく

をあらしうつしたる所なり三月
さきめ〳〵ものさきそよめはさきそ陽の
翩々たる京師のふはのうへ題のつを
ものもものもらさしへ四季より
つら意奇雑歌の六さに分ち補撰の
うふかな其歌ことに記志新しいさ
う世の嘲笑まねかるふ徒たるふ仰ら志のは

あ猪とゆうぬ也毛の雲(ソラナリ)ゆ可き
志らへの義ゝ紙らんとはいうの所ゆ
加ことをたまつこんとなは歌へらそ
殺ひ路へ清めうへと植園雲神社史
へ小幣ゆ所ゆてこのゝ方ゆ
尾張人植園の翁野川の
書とものを義一日梅之張

春歌

元日　　景樹

ゆくとしをとゝめて今はうちねむり眠るまくらもとの春風

立春天　　よゝ人一首

いつくよりわけるまとかの原ふかき千ちの霞の春の初月

きつまのうち　　清樹

新しき年をむかへつゝ春はつかの空ぞ春風喜水一時来

春風喜水一時来　　よゝ人一首

月人を世の若み汲あげて俤ふかき袖の玉風を吹　星桜

早春水

山里はのどけ極のおとはかりかすみわたる春の初日　長義

子日

同じ所遠よりのはつひとさなりて無きかけるへく、　意俊

社頭子日

春日野松をひろふ程はけるゆきもとまれるん　景頼

二月子日によせる

さくらはなおれをひろをそこのうきふしまつなるてま、

春朝

山きしの長閑ふりとをおもかけ山や春はあたるらん、　景樹

霞

おもかけ山五色にてあるかまくゆ思越るうらはるるに　斐雄

湖霞

なまれうしきまつ待つあくる霞て大和田あも春のあけぬの　生雄

海霞

波のうへはの霞は湖きをふくわたるとも帝之天の月立　知紀

水々霞

正高

青柳のいとよわかりて風川山も遠くひくゝ長うる

羅城霞　久敬

春の風美濃うなるまて立籠つゝるといそて羅城越ん

曉霞　景樹

雉のなく遠山きりをつたわるもあの所々青の霞ける、

霞隔川舟　重見

みなといて遠ふれたゆしらん舟もかすも霞れ釣舟

鶯　景恒

うらゝかすのうゝのまに春やとは本偽ひ初枝なるうゝ、

曉埋鶯　知紀

鳴めとてなく鶯の春ゝの梅の白ひと今動くら萌、

若菜　亞元

いつとうの若なる橋ら人都人雪の雪はいつとけるに

松殘雪　景樹

雪の雪の玉水の枝小降ゆ春ふ折も降ぬ雪ゝ、

春水　朝氷むすぶて寒ゝ殘ゝうゝ河のゝ殿、

梅　勝称

盛りなるはまきらるべうめ花にて香をとらん人とてに

重見

うめの花折りてとおもひてまさぐる人の住けるかなの宿

直好

世をこめて梅の花をおもはぬ人はあるべうなし

三孝

ゆきとまく杉の葉いとの針にふる梅のうきぬやとなる雨

梅花盛

重信

木伝ひて帰らひなのいとまなき梅のさかりなるけれ

題しらず

雄吏

うぐひすのおとづれてもその花の梅の長居

長義

かるきえをおもふとてふらふる梅の遠の旬はまりけり

紅梅

景樹

紅梅なるおもかげのうめの花の変たるはつかの宿

柳

直好

もとに深う世でうまき柳のいとの入てはらすてそ

故々柳

常清

[illegible]

柳露　享春

[illegible]

春月　知紀

[illegible]

春月鶯　直好

[illegible]

海辺春月　昌[illegible]

[illegible]

題　節

[illegible]

春雨　雯雄

[illegible]

春雨　秋長

[illegible]

春雨　長義

[illegible]

河春雨　貞實

とやこなくあらせとも河の水のもるともなきまなの面に

吉史

散つ川なる柳のひとえたとりてもあまの面影

浪華春雨　　義比

春日の降ともちらてぬるあをやぎ藤原軒の宗こ

題しらず　　宗川

はるの夕とえて夫と雨かはゆく高らかに

夕帰雁　　昌敷

菅比根のなきはるを深の夕とりて帰るかりかね

亞元

夕霧の雲の面影かすかなるかの消てしり（をつん研出ぬ）

春月　　弓子

揚雲のはるの空を映へのの月美う柳引ふ

澤春月　　正之

澤面ふ影をうつして五月の黒髪の上に風そふく

待花　　凝式

やてくちるを待るあるとしるつるを志も待せて彼の辰ん

斐雄

傍らに咲つきそ花ホ有りけるを見いてゝ人や花をこえなん

花　　幸文

春風のふきはらひたる花ちるゝ春雨さかなりけり

題しらず　　寄め

大和川の世話なる花の安浪のうつりてをみるかな

久敬

この春も花を遊ひくゝ之るに奇大石れる世のふる事ども

よろづ人一ら

世の中に花のあり代なりせなまをふれを遊ひて春ん

尼なるこゝろの山さくら咲ゆ雲ゆ雲ゆ雲ん　　芳子

菅の根のなきまを春ホ咲なるさかりみゝるこゝろ

尋花　　熊吏

眺るゝ花ものは山さくらたちねあるてをつる宿

山嵐花　　観山

山さくらの花をたをれあれてとゝめ者ゝ人

松間花　　長翁

[illegible]

月前花　よしみつ

[illegible]

静見花　家比

花の世をうのてはかきもなし　高くなれを日毎に見るの色

散る花　快存

[illegible]

花満山　よしみつ

只渡さん　峯より高き桜樹　花咲あり　小弘法の山

花数風多　崇任

桜花のあらしよりは但ちらしとかてとあるべしてい

依花眺風　斐雄

人こそうらみ　[illegible]　知紀

芳野　[illegible]

[illegible]　長経

さくらをいろ　[illegible]　義成

題　[illegible]

面迎て足伸る日ぶりなし山花はこよひや限る席らん
孫生はつか日の思ひそ　斐雄

おもしろき春の日足越ゆて伝ふ袖に霞さへ　如哉

惜花

地にて侍らにゆくゆく桜花路ふきく人のゆくへやあはれや

落花

世にかなるあし火山の夕月根何はきた花散るらん
よみ人しらず

春かれさける桜の花あれとちるを惜むらん花そすれ

程よきるあれとし流し　桜も雲に寄るそ驚かれぬる

河落花　重樹

花さそふ風のさそれよ程よ流るるひく瀬をけふる大井川かな

遠帆

いくへく毎あらぬ新世の墨の色をおしといひてたくふる哉

春曙　亨壽

末なきいつくも霞とうちひとたなく音はすみにけ曙

惹来　景恒

立かへる古里に草たちの花にそくあなのあるへき春るらけれ

蛙

百人一首

百敷や岩戸の[illegible]なる蛙の聲や山川
高の池の蓮葉うつる蛙書こひすら聲は思ふ

田家春望　直好

春雨ちとうつるたそとの山田あ蛙や果ま、

歌枕

山吹の花咲國の[illegible]折うきもて[illegible]

夢宅

俤ふ[illegible]ら流れ[illegible]り[illegible]蛙を鳴ようすき[illegible]の花

藤

秋長

ひ枝を打ち[illegible]を藤の花[illegible]ぬ[illegible]

よ[illegible]人一首

あ[illegible]山若葉[illegible]藤の[illegible]

松上藤

昔よりの[illegible]なの[illegible]

暮春　幸文

山吹の花ちりぬれば山城の井堤も[illegible]

砂爰

[illegible]

清根

[illegible]

暮春の花　　景樹

[illegible]

暮春雪　　外子

[illegible]

夏歌

首夏水　　亞元

[illegible]

首夏雪　　知紀

[illegible]

更衣　　遊式

[illegible]

新樹風　　斐雄

[illegible]

故人新樹　清根

[illegible]

恒和花　京頂

[illegible]

餞花　俊民

[illegible]

題　[illegible]

[illegible]

[illegible]

葵　景頂

[illegible]

夏衣　清根

[illegible]

山雲夏忽盤　斐雄

[illegible]

首夏郭公　文秋

[illegible]

知月郭公　　自休

五月雨のかすかに何をぬ時る初音とゝぬまつ人れ

初時鳥　　清根

かゝてゝ思ひ入れ郭公初音はやうかゝ

郭公　　四元

おぼろとゝの外山のかすゝまに見し初音聞るゝ

外の花のゝ風の九ゝまに頃ゝるゝを知ゝて春風ゝすゝ

聞郭公　　重文

秋長

とゝ春ゝやゝ聞るゝあけぬ夏ゝきゝ初音ゝ知ゝて人の袖ゝ

近郭公　　為長

かゝゝまに聞ゝ近き一ゝ夏はゝうゝてゝまゝ山ゝ郭ゝ公ゝ

湖上郭公　　ゝ長ゝ

ゝゝ夏の雨ゝゝゝる湖の面ゝゝ郭ゝ公ゝ

海邊郭公　　直好

足曳の山ゝゝゝ海原の波のうゝまて今ゝ聞ゝ郭ゝ公ゝ

郭公一聲　　幸文

ほゝゝゝ須磨ゝひゝ郭ゝ公ゝ聞ゝ杜の月ゝ紀八夏ゝめゝ落ゝ

三首

[illegible]

昌秀

[illegible]

曉郭公

[illegible]

景恒

山家郭公

[illegible]

泰長

[illegible]

郭公

景樹

[illegible]

喜青

郭公

康武

[illegible]

長敬

[illegible]

京恒

馬上郭公

[illegible]

時鳥稀

清根

世の人のきくまれなるほとゝぎす　景樹

藥玉

藥屋のかくまもとめし時ゆゑ　亞元

故郷菖蒲

[illegible]　清根

河夏月

[illegible]　長義

菖蒲

橘を[illegible]人の神の香に誰とはなつまし紀友

五月雨のあめ時ふる風に橘の匂ひ[illegible]　[illegible]

升る

[illegible]の花橘の陰ふる雨に[illegible]

盧橘遠薰　惟孝

いつまで花橘の[illegible]

盧橘薫風　通禮

[illegible]の[illegible]

夕景苗

秋篤

夕づくひ傾く杉の新芽みて丹生の山畑麦蒔かるゝ

安材

清五月雨

汐みてあら美の浦廻の松の花の清の五月雨の

長義

題射

宮藤をうゑおきて五月山前人ゆく新芽哉

牧遠史

元如

あやめ草白たらちねの立居〳〵新芽やとる也〳〵

水鶏

水鶏

かゝる又多く庭掃き山陰のうひる夏を知せ雨

月前水鶏

真好

見渡の山下の人し待夏月たゝやうてゝ水鶏多く鳴

水鶏敬鳥夢

知紀

夏草にくまなき水鶏の鳴の気と牧笛のとゝ消て社人絶

水上蛍

義信

夏草はもえてゝ色の涼しはよの上にあるく蛍

池上蛍

意成

大澤の池もしるき降雨と本陰るに紀て行おるる

源東園　　定之

月新たなるまきたてよりそいたるふを田れみほ風紀く、

題一らん　　忠友

月ゝ新たなるみのうらはうまて風吹ぬ夏ぬ

氷室　　亞元

夏風ぬ雪て夏ぬいてぬ室戸なるん

氷室　　旭

夏氷ゆゝ室の山の峰の松風

夕立　　景樹

夕立の古葉吹ゝ山風ゆゝ交ぬ夕立ぬ

直好

ほゝゝ雲のあまぬの名ぬ降ゝ夕立ぬ雨

岸夕立

伊吹山みねゝゝぬ夕立ぬ雲ぬ

水辺納涼　　勝祐

玉藻ぬ新ぬ里ぬ夕ぬ絶ぬ社すゝ絶

竹風涼　　国豪

音ぬ立ゝ窓の竹ぬ夜ぬ風吹ん

晩風涼　直好

夕日影杉のこゝ葉さしもれて涼しくなるこの頃の風

泉　守雄

結ぶ手の清水にうつる月の影ひしゆかぬ玉ぬけ井の水

常清

高殿の杉のたち木に隠るゝは影よりおのの陽の光

題しらず　よ人しらず

山河の岩間を出て稲せ流れ　やる家のかくれかくれ

河清稜　長嶺

あまの住る流れを汲りみそぎをつゝむ紙ぞ清き

秋哥

旅立秋　　幸文

[illegible]

旅立秋　　重能

さゝぬ[illegible]舟よ旅のそら[illegible]秋はきぬ[illegible]

秋のはつ[illegible]　　こ[illegible]

今朝[illegible]秋も[illegible]秋のものゝ[illegible]

秋風　　よ[illegible]人[illegible]

いつのまに野の[illegible]秋の風[illegible]

殘暑　　吉如

[illegible]秋とも風の[illegible]日[illegible]

七夕風　　よ[illegible]人[illegible]

[illegible]天の[illegible]井の[illegible]神風

題[illegible]　　弓子

[illegible]

七夕天象　　秀雄

[illegible]

七夕後朝　　芳子

久方の天の川波たちのぼりてやどりこるらん

不定萩　清根

秋やとの萩のさいふたとき音せめよりとまりけるか

古御萩

萩の花ちりしきてしたなるねとなるこすあ[illegible]や家

女郎花多　元輔

ひと枝をたをりてもとまる女郎花あるにはぬきもとまる

雨中女郎花　重頼

おりて白の露の女郎花の[illegible]ぬれやとまるか

薄未出穂　勝称

穂をりいてはまねかるるの[illegible]

雨中萩　定樹

音たてて降るこんかた秋の萩はのうへをぬれて[illegible]

萩露　円子

花ちるまでとまるつゆ萩の露は誰をまつらん

出雲路　京頼

たちかへりこんをとあてきこえて秋風に音をとる虫

初雁　夢宅

さそへかしなきわけぬる秋風の消えなこゑる初雁の声　自休

野鹿

秋の野の尾花の袖をぬらしてきて物思ふや鹿の独なくらん　雙雄

深山鹿

鶏すとはのふかけ　さを鹿の声はやまるる音をたずねて　光

海辺鹿

さを鹿のよるなすらん書をものこいつもあるを鹿なるか　方忠

露

秋の野に尾花ぬきたはをてつ鹿ぬれて袖の露を鹿の音　宗明

大空の月の遠ゑ鹿いつる鹿は秋の夜の露のみゆらん　直好

花すすきなびくをひきやとそ露とんやとあるらん　正青

題しらず

入あのまより出る月の影ぬれて鹿の声　負

駒迎

杉の葉の風の吹ぬ音ぬれて鹿の声　正寿

月

月ゆゑ長しつまてとは思ふ者の涙の袖に宿る秋かな

寛隆

十六夜

さ衣さしかへてのみ月の光をまちあかすかな

観山

待月

大空はくもりなきかの月の光をまちあかすかな

京松

松間月

松風に雲吹はらふ道のくまなきまでもかけ渡る月

よう英

題しらず

大空は月のみかけもあらはれぬ秋のよもすがらゆゑん

長雅

秋風にさそはれてやあらしの音のゆくへもしらぬ月の光

よう英

田家月

まをとのうらぬ門田の面の月さえて雪かりにとまと驚かれけり

幸文

海月

今はとて人の面影をうつすかの月の光ぞ絶

斐雄

今宵は月をしかりまてし秋も言ひあはせかねる

維中

待月

中てるあくるまでて月を深まの月見ん

よまへしら

題しら

ひんうの山の峯の月遠しいさ行かんいさ行原まて

たるひ風雲の月新のいふて風さやかなん

きわ〳〵時のあふ人もなき藤の月ともなる

曉月

山陽ふこの風よりの無月まなる有明の月はきゆるを

月翁水

ふるさとの月はやあれ〳〵はなれ〳〵ゆ月を新たをつ

正義

海辺月

あをら海ちはまて海の月のいさよふ秋の月

景樹

伊勢の昔のよりやうあらん海よりたるよふ秋の月

知紀

浦月

生駒山月さをの風秋和歌の雅彼のうを恨なりの風

よまへしら

蕎麦間月

なるのをを行端よりおのの月ふむを遠のうけ

綱根

題しら

夢比

[illegible]

旅月　　秋夏

織機の音は袖さえて[illegible]月[illegible]本[illegible]山里、

行路月　　雪道

[illegible]

題[illegible]　　知紀

新[illegible]と[illegible]ひ[illegible]月はやれる海の井に水

[illegible]山[illegible]行[illegible]る[illegible]　　云如

家[illegible]の[illegible]月[illegible]

搗衣　　よ[illegible]人[illegible]

[illegible]門の波は[illegible]

[illegible]　　常清

[illegible]

唐衣[illegible]　　辰政

山家搗衣　　長義

[illegible]

旅搗衣　　夏定

信濃なる木曽の山人も秋ふりて夜寒の衣打なりて

隣家擣衣　資雄

ぬるかうへ家居せし友の擣衣とふあらしても今うつらん

秋夜　よみ人しらず

世のなかもさは康しなまそかりし南風長月の秋は限なき時

秋雨笹葉景落　瀬式

家やらの垣根に荒し山桃の実より色深く秋の雨ふる

秋田　直好

足曳の山田稲葉もそよいでめくらし鹿よりひとの音も聞ゆる

秋庵　長舒

秋田も紅山田の原秋かけて庵も紅かり月かけ稲葉に涼しき

題しらず　景樹

切りしや草編つ紅染ばかり庵にけ稲てさし入る月の影

うつろなく尾花も末を吹風にすゝきくる中庵も宇川の水

詠まれて夕旗雲のたなひきかけし秋かゝる庵秋の空かな　大成

早川の水かれの草しひく音のとゞ流く秋に物かけるかな　直方

[illegible]

義比

初見紅葉

秋風の音するなりと思ふまに[illegible]

尋紅葉

升子

[illegible]

紅葉撓

観山

[illegible]

紅葉映日

重俊

[illegible]

信定

[illegible]

重陽

[illegible]

清光

月と菊

[illegible]

菊露

朝風に何風吹き起して[illegible]

菊花開露

言岸

[illegible]

長雄

山路菊

[illegible]

基之

菊延年

人[illegible]

直好

題[illegible]

秋風吹[illegible]

京橋

秋[illegible]

成興

暮秋

暮秋康

升子

[illegible]

久敬

暮秋紅葉

[illegible]

寛隆

暮秋時雨

[illegible]

冬部

初冬　　よろづ人丸

[illegible]

木枯　　亨壽

風吹[illegible]

久方の月のうつる新[illegible]　　京極

[illegible]

[illegible]　　直好

[illegible]

時雨　　隆亨

[illegible]

月前時雨　　よろづ人丸

山端ふ[illegible]

[illegible]　　冒家

小夜ふけて月もいでぬ越えぬなほひぬ逢坂の山

遠鳴時雨　　京極

沖つ波うちつけられぬ伊豆の海やてぬれぬ

題しらず　　京極

秋はてぬる鶴の声　　京極

寒風

雁人の鳴きてうち渡る秋の夕

題しらず　　よみ人しらず

鶴拂霜　　斐雄

さむしとてひとりぬるかな淋しき風の霜はらんん

題しらず　　京極

月夜さえ河水流れ・海つらの松の梢にしも宿るなり

氷　　直好

春門の板井に水の音ぬるるなり・氷よりもなほ

水鳥　　京極

ちとせのものかとうの毛をかきさぐりて引るるかな

長義

山橋と[illegible]

よ美人[illegible]

小舟の[illegible]

喜好

時雨する雲の[illegible]

よ美人[illegible]

網代に[illegible]

海邊千鳥

元元

沖[illegible]

名所千鳥

長家

いつ[illegible]

京橋

題[illegible]

よ[illegible]

池上水鳥

よ美人[illegible]

月新[illegible]

雉鴨

有道

よ[illegible]

寒夜水鳥

陸子

[illegible]

よ美人一首

冬月

山端の雲立ちかくれいつるより人まちえぬ冬の夜の月

故人冬月　素性

冬枯の萩のかれ枝ふりにてすみ[illegible]なる故さとの秋

寒月　よ美人一首

降つもる冬の雪の近ふきて光をけすは月の日

月前霜　重頼

たゝすみてゝるてらす月の霜はゝ[illegible]の霜

題一首　よ美人一首

とゝ野のゝ[illegible]みゝ紅て空えを染まし池の霜

初雪　清樹

あさ風にちりくる雪は初花を末ゝ[illegible]なるゝ[illegible]

松上雪　芳子

松と[illegible]雪[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月前雪　可宮

うちつきよ月の雪かは雪は月の[illegible]

直好

久方の日のひかりにさしてゆきはなりて
題しらず　よ美人しらず

樂浪や比良の遠山雪晴れて春の花咲かりけり

磯雪

あしたづのあゆいそ野にふる雪はひろきを待て積るなり

網代　厚比

ながらへのむすびてとめぬ氷の波の音ぞさやけき

氷魚　正雄

風の音はうしろにさむけれどもとの歌うたがなり

寒夜炭　よ美人しらず

あしの吹ねの絶ぬ夜ぞ寒き深きなりける

寒雁　百元

ひかりつのかすかなりつるかすみ霧れるかり路の空

落春雁　よみ人しらず

春の雁なれぬ雲ぢをなるゝ程ぞ名残なりける

野行幸

あまつ風雲をかすかに吹ぬれば空ぞ春なる

神樂　長弟

[illegible]

直好

[illegible]

[illegible]

高能

[illegible]

歳暮鶴　自休

[illegible]

歳暮祝　長翁

[illegible]